

6 第5学年 国語科 Let's Enjoy Old Japanese Tales!!

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 梅田 裕基

1 はじめに

体験型海外教育実地研究の話を聞いたときに、私は、すぐさま参加を決めた。大学院に進学し、自分を成長させる機会を求めている自分にとって、願ってもないチャンスであったからだ。費用に多少、不安はあったが、今、この時、このメンバーとアメリカに渡り、しかも授業をすることができるという経験には代えられないと思い、体験型海外教育実地研究への参加を決めた。

2 実地研究の日程と概要

月日	Transportation	Activities	Lodging
4/22(木)	渡航までの日程確認 パスポート確認 ESTA・保険の確認 5/13、23の紹介と確認 授業研究テーマの設定方法		
5/13(木)	Culture and Pedagogy: Bushido, Sado, Kado, Is there a way of education?		
5/23(日)	J・タッカー先生、ECU 学生案内 広島駅→平和公園・宮島→広島駅		
5/27(木)	ホテル部屋割り 授業研究テーマ案の交流		
6/17(木)	学習指導案の検討		
7/15(木)	学習指導案の検討 渡航のための諸手続き		
7/17(土)	第6回学校間交流国際フォーラム		
7/18(日)	2010 体験型海外教育実地研究授業研究ワークショップ 2010 体験型海外教育実地研究発表会		
8/27(金)	学習指導案の検討および教材・教具の作成 渡航のための諸手続き		
9/2(木)	渡航準備 直前打ち合わせ 報告書作成および発表会の打ち合わせ		
Sep 11(Sat)	Hiroshima 0745-0925 Narita (NH-3128) Narita 1105-1040 Washington Dulles (NH-2) Washington Dulles 1235-1340 Raleigh (NH-7144) RDU Airport→City Hotel & Bistro Transportation: Dr. John Tucker is arranging vehicles and drivers for us.		City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd、 Greenville、 NC 27834 Tel: 877-271-2616 Greenville
12(Sun)	Transportation: Dr. Sandra Warren will arrange the transportation for us.	Preparation of Lessons 3:45 pm pick-up from hotel to go to Pot Luck Pitt Pickin and meeting with school representatives	Greenville
13(Mon)	City Hotel→Each School Transportation: Dr. Sandra Warren will arrange the	School Visit Wahl-Coates E.S. (K-5) Observation/Teaching	Greenville

	transportation for us.	Dinner: Hibachi Grill & Supreme Buffet at 5:30 pm – (3427 S. Memorial Drive) Kobara and Matsumiya will attend the welcome dinner of ECU Education Abroad Fair– pick-up from hotel at 6:15 pm	
14(Tue)	City Hotel→Each School Transportation; Dr. Sandra Warren will arrange the transportation for us.	Morning: School Visit Observation/Teaching Afternoon: ECU Teacher Resource Center , ECU Bookstore, Bender-Burkot Store Kobara and Matsumiya will attend the ECU Education Abroad Fair (1:00 pm – 3:00 pm) Dinner at 6:40 pm: McAllister’s Deil. (740 Greenville Blvd SE)	Greenville
15(Wed)	City Hotel → St. Peter’s Catholic School → Clarion State Capital Transportation; Dr. John Tucker is arranging vehicles and drivers for us.	Morning; School Visit St. Peter’s Catholic School. They will be happy to have you visit on Sept. 15. http://www.stpeterscatholicschool.com/	Clarion State Capital 320 Hillsborough St. Raleigh, NC Tel: 919-832-0501 Fax: 919-833-1631
16(Thu)	Transportation: On foot	School Visit *9:00 am; Exploris M.S. *11:00; Museum Visit North Carolina Natural Science Museum	Raleigh
17(Fri)	Hotel → RDU; Taxi Raleigh 1025-1130	Traveling to Washington DC	Washington Plaza 10 Thomas Circle, N.W.

	Washington Dulles (NH-7145) Airport → Hotel; Taxi	Study on the American Culture	Washington, DC 20005 Tel: 202-842-1300 800-424-1140 Fax: 202-371-9602 Washington DC
18(Sat)	Transportation: Subway	Study on the American Culture at Historical Place	Washington DC
19(Sun) 20(Mon)	Hotel → Airport ; Taxi Washington Dulles 1220-1525 Narita (NH-1) Narita 1750-1925 Hiroshima (NH-3129)		

3 実地研究授業

3. 1 単元等名 第5学年 国語科 「Let's Enjoy Old Japanese Tales!! 」

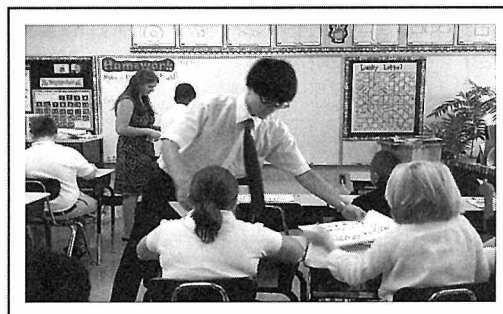
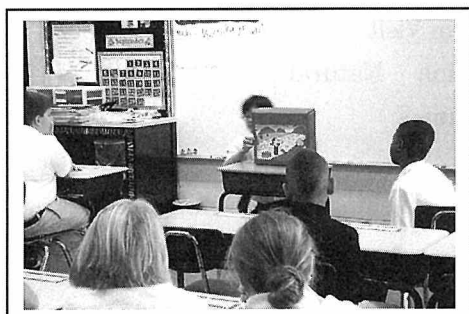
3. 2 事前準備

【単元設定の理由】

私自身の研究テーマが「小学校における絵本の読み聞かせの活用について」なので、それに関する単元を構想しようと思っていた。しかし、絵本だと製本や著作権などが問題になると思い、何かほかによいものがないかと探した。その後、単元の内容として、日本の文化と関連したものを、と考えたときに日本昔話が思い浮かんだ。以上の流れから、日本昔話の紙芝居を自作しよう、という大枠が決まった。

【準備物とその意図】

準備物としては、拍子木・教師用の紙芝居・子どもたち一人ひとり用の紙芝居・まんが日本昔話の英語版1巻～5巻を準備した。拍子木は、導入で紙芝居独特の雰囲気を出すために、百円均一の角材と刺しゅう糸で手作りした。子どもたち一人ひとり用の紙芝居を準備したのは、一人ひとつずつ持ち帰って、その後ぬりえなどでも楽しめるようにと思ったためである。当初の計画では、子どもたち一人ひとり違う話にする予定だったが、一つのお話に10枚前後の絵を描かないといけないことから、準備の時間が足りなくなり、やむなく7種類を用意することになった。幸い児童数が21人だったため、2人組をつくったときに同じ話が被らないようにはできた。また、まんが日本昔話の英語版1巻～5巻は、紙芝居の絵を描く段階で参考にするとともに、私が日本に帰ってからもなるべくたくさんのお話を子どもたちに知ってほしいと思い、先生や興味のある子どもたちが楽しめるように、授業先の先生にプレゼントした。



3. 3 学習指導案

Lesson Title: Let's Enjoy Old Japanese Tales!!

Lesson Author: Yuki Umeda

Date: September 2010

Grade Levels: 4th - 5th

Subject: Culture

Description: In this lesson, students know old Japanese tales and They play picture-card show.

Goal: This lesson will encourage students to understand old Japanese tales. It will also help them develop a interesting for their own tales and culture.

Objectives

- 1 Understand Old Japanese Tales.
- 2 Enjoy playing a picture-story show.
- 3 Understand Other countries have their own culture and be interested in it.

Materials, Resources and technology: Long sticks, picture-story show"The Peach Boy", picture-story show's stage, Big paper ..., Big paper ..., picture-story show, Sheet

Procedure:

Student's activity	Teacher's activity	Materials
1. Enjoy a picture-story show "The Peach Boy".	1. Play a picture-story show"The Peach Boy".	Long sticks picture-story show"The Peach Boy" picture-story show's stage
2. Know about a picture-story show and how to play it.	2. Explain a picture-story show and how to play it.	Big paper ... Big paper ...
3. Prepare the way for playing a picture-story show.	3. Distribute them picture-story shows and let them to prepare the way for playing it.	picture-story show
4. Be paired with classmate and play a picture-story show each other.	4. Help children who can't play it each other.	picture-story show
5. Share their feelings.	5. Let them to exchange their feelings.	
6. Write down this lesson's impression on paper.	6. Sum up this lesson's points. Give them presents the picture-story show.	Sheet

3.4 授業の実際

本授業のねらいは、日本の昔話の紙芝居を体験することによって、日本の昔話や紙芝居というのを知り、日本とアメリカの文化の違いに興味をもつことができるようにすることである。授業内容としては、突然子どもたちの前で授業者が拍子木を打ち、紙芝居を演じ始めることから授業を始めた。その後、授業者自身の簡単な自己紹介、「紙芝居」の簡単な説明(歴史的な話や、その起源、方法など)を口頭で行い、子どもたちに一人一つ紙芝居を配った。その紙芝居を、二人組みで一人が演じもう一人が観客になるという活動を行い、感想を数人に発表させた。その後、全員に紙を配り本授業の感想を書かせ、授業者が前で演じた紙芝居「桃太郎」や子どもたち一人ひとりに配った紙芝居、そして英語で書かれた『まんが日本昔話』1～5巻をクラスにプレゼントし、授業を終えた。

子どもたちの実際の感想を、いくつか以下に記載する。

「The things I most liked about the book “The Inch – High Samurai” was when ‘Issun - boshi’ fought his life of the master’s daughter. It was really nice because normally someone would just say “Every Man for himself.” But Issun – boshi stood up for a lovely girl, and that was nice. Thank you again for coming all the way from Japan! I was glad you’ll come! It was really fun!」

「The thing I most liked was how the writing was on the back and the picture was on the front I thought that was very cool.」

「I like it because it was like a slide show and I never saw a little boy fight like that and I never saw a Demon like that and I never saw a little boy in a peach.」

「I liked the story because it is about people and what they do. I never seen a book like this. The part that I like was when the fisher man saw the prince. It is so cool I can’t wait when I tell my family.」

3.5 考察

成果としては、まず、教材研究の過程で、紙芝居に関する知識を得ることができたことが挙げられる。以前から自分の研究分野である絵本の読み聞かせと関連が深いと感じ、研究の必要性を感じていた紙芝居の分野について、今回先行研究にある過程で得た知識は、今後の糧となっていくであろう。また、紙芝居の絵を授業者自身で描いたことも、大変貴重な経験であった。



課題としては、大きく述べると、授業の内容の吟味が足りなかったことが挙げられる。授業が早く進んだ場合には、どのような活動をプラスするかについて考える必要があっただろうし、もし思うように進まなかった場合にはどんな活動を削るかについて考える必要があったと思う。具体的に述べると、授業者自身や紙芝居についての説明の段階で、もう少し模造紙などを使ってわかりやすくプレゼンした方がよかっただろうし、早く紙芝居を演じ終わった二人組への対応や、机間指導でどんな声かけが有効だったかということも、考える必要があったであろう。また、最後に余った時間に、授業者の授業全体に対するコメントも考えておくべきであったであろう。この課題の一因としては、追い込まれた際に、何でも自分以外のせいにしてしまう授業者自身の性格が挙げられる。反省至極。もう一つの課題としては、言語に関するものが挙げられる。実際に授業をすることで、自分がどれだけ言語に頼っていたのかを思い知らされた。子どもたちの反応を読むことが難しく、その一因としては自分の表情や身振り手振りによる動作の乏しさが挙げられると思う。紙芝居におけるパフォーマンスは、読み聞かせでの読み手のパフォーマンスと共通するところがあるので、もっともっと練習して読み手、演じ手としてのスキルを上げていきたいと思った。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

①子ども観

アメリカの子どもたちの性格についての私の先入観は、「明るく活発で積極的」というものであった。そして、実際に、様々な訪問先の学校での子どもたちの様子は「明るく活発で積極的」であった。どの子も、笑顔で私たちを迎え入れてくれた。一方で、私が授業した高学年(5年生)の子どもたちは、非常に落ち着いていて大人しく、私語も非常に少なかった。私の授業展開が悪かったということや学級の雰囲気などが要因の一つとして考えられるだろうが、休み時間には活発な様子だったので、メリハリのある学習態度が身に付いていたのではないかと思った。また、その態度は、椅子に座って学ぶよりも活動することが多い、授業内容にもよるものではないかと思った。

②授業観

一学級の人数が少ないことも起因しているのであろうが、教師が子どもたちの学びの様子をよく観察している様子が心に残った。そのためか、子どもたちに教師の指示がよくとおっていて学級が学びの空間になっているように思えた。

③学校観

学校の様子は、建材から匂いから日本の学校とは違っていた。また、使われている色の彩度が高いこともあるのだろう、掲示物がとてもカラフルでポップであった。また、これは文化の違いが大きく影響していると感じたこととして、様々なことが文章に表わされていたところに掲示物として貼られていたことが挙げられる。日本ではあまり見られない、用語を定義付けしたものや標語のようなものの掲示物が多数見られた。これでは落ち着かないのではないか、という疑問と同時に、これだけ明るい掲示がしてあると気持ちも自然と明るくなるのではないか、と思った。

4.2 自分自身についての変容

多忙な日々の中で、本研修が、何となく楽しかった思い出として風化してしまいそうになっていた。しかし、今回、報告書を作成する中で、アメリカで撮った写真を見返し、自分がアメリカに行く前に授業内容の検討で試行錯誤したなぐり書きの紙を見返したお陰で、“アメリカでの経験があったからこそ今の自分がある”と実感できた。やはり、何事もフィードバックが大切である。追い込まれた際に、何でも自分以外のせいにしてしまう癖を自覚し、改善していこうと思えたことが一番の自己の変容と言えるかもしれない。

4.3 グローバルマインドに関する変容

実際に、足を運び、その風を感じ、音を聞き、人や町の様子を見ることによって、“グローバル”を実感することができた。

また、コミュニケーションに大事なものは伝えようとする気持ちだと実感できるような経験がいくつもあったことは、このプログラムに参加した成果の一つであり、グローバルマインドに関する変容の一つと言えるであろう。



5 おわりに

正直なところ、多忙すぎて参加したことを後悔する瞬間も、渡航前の準備の時期にはあったが、実際に始まってしまうと、あつと言う間であった。メインである授業はというと、つたない英語、工夫の足りない授業展開で反省ばかりの結果となってしまったが、子どもたちが書いてくれた感想文を宝物にして、いつかリベンジできるその日まで、自分をより成長させていこうと思った。

引用・参考文献

ラルフ・マッカーシー 翻訳 川内 彩友美 編『まんがが日本昔ばなし—Once upon a time in Japan (1)～(5)』

講談社英語文庫 1997